

## 月 別 市 況

## 1 月

1月の取扱頭数は、牛9,660.0頭、豚27,258.5頭、1日平均取扱頭数は、牛537頭(前月比79.0%)、豚1,514頭(前月比123.8%)であった。入荷は牛減少、豚は増加。

相場は、末端の消費不振から、スソ物がスーパーなどの手当てがシフトしたため上昇したものの、上物は年末年始需要が一段落したこともあって値下がりするなど全般的に弱含んだことから、和牛は、前月比、前年比ともに価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,877円、乳牛(B-3)であった。豚生体(上規格)は、売れ行き不振で末端消費が鈍いため、買い気は依然として弱く、需要の回復には至っていないものの、中旬に、安定基準価格価格割れで再開された調整保管により買い支えられたことから、平均価格は、374円(前月比3円高)とほぼもちあつた。豚の取引は、全国出荷頭数1,405,443頭で、一日平均78,080頭と前月比25.5%増。相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量86.3トン(前月比76.9%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は595円で前月比119円安となった。

## 2 月

2月の取扱頭数は、牛11,715.0頭、豚25,871.0、1日平均取扱頭数は、牛586頭(前月比109.1%)豚1,294頭(前月比85.5%)であった。入荷は牛増加、豚は減少。

相場は、引き続き末端消費の低迷や、鍋物需要の不振により、全般的に弱気ムードの展開となったことから、和牛はスソ物を除き前月比、前年比とも価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,859円、乳牛(B-3)926円であった。豚生体(上規格)は、調整保管の拡大と、市中に不足感が強まり実勢相場が強くなったことなどから、初旬に400円台前半まで回復し、その後も堅調に推移したため、平均価格は424円(前月比50円高)と上げた。

豚の取引は、全国出荷頭数1,375,073頭で、1日平均60,754頭と前月比11.9%減。相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量341.8トン(前月比396.1%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は770円で前月比175円高となった。

## 3 月

3月の取扱頭数は、牛12,355.5頭、豚28,228.0頭、1日平均取扱頭数は、牛562頭(前月比95.9%)豚1,283頭(前月比99.1%)であった。入荷は牛・豚ともに減少。

相場は、食費以外の出費がかさむ時期であるうえに、今年は慢性的な消費不振状態にあり、牛肉相場はスソ物の相場は堅調に推移したものの中間クラスは値下がりパターンとなった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,862円、乳牛(B-3)840円であった。豚生体(上規格)は、初旬は堅調だったがその後一気に冷え込み、一時400円を割り込んだ。その後豪雪の影響で出荷が大幅に減少し価格が急上昇したこともあって、平均価格は443円(前月比19円高)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,457,397頭で、1日平均66,245頭と前月比3.6%減。相場は強保合。輸入牛肉は、取扱量308.7トン(前月比90.3%)で、セリ上場の取引はなし、平均価格は810円で前月比40円安となった。

## 4 月

4月の取扱頭数は、牛12,061.0頭、豚25,407.0頭、1日平均取扱頭数は、牛603頭(前月比107.3%)豚1,270頭(前月比99.0%)であった。入荷は牛増加・豚は減少。

相場は、末端の消費低迷を反映して、B2以下のスソ物は前年比、前月比とも堅調に推移したものの肉質等級3級以上のものは全体に低迷した。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,864円、乳牛(B-3)960円であった。

豚生体(上規格)は、口蹄疫の影響もあり、月の前半は370円台から390円台で推移した。中旬から下旬にかけても消費は伸び悩み、400円台に回復したものの低価格指向が強くなり高級部位の不振が価格を押し下げた。平均価格は404円(前月比39円安)と上げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,330,212頭で、1日平均66,511頭と前月比0.4%増。

輸入牛肉は、取扱量350.7トン(前月比1153.6%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は645円で前月比165円安となった。

## 5 月

5月の取扱頭数は、牛11,532.5頭、豚26,124.0頭、1日平均取扱頭数は、牛549頭(前月比91.0%)豚1,244頭(前月比98.0%)であった。入荷は牛・豚とも減少。

相場は、末端の消費低迷を反映して、牛肉の需要が単価の安いものにシフトしたため牛生体枝肉の平均相場は、肉質等級2級以下のものを除き前年比、前月比とも値下がりパターンとなった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,830円、乳牛(B-3)902円であった。豚生体(上規格)は、連休前400円前半であったが、休日が長く在庫不足のために休日後の8日は484円まで高騰し、その後は日ごとに下降し18日は383円となり、以降は出荷減少から420円台から450円台の相場展開となった平均価格は430円(前月比26円高)と下げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,372,931頭で、1日平均65,379頭相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量110.0トン(前月比31.4%)で、平均価格は568円で前月比77円安となった。

## 6 月

6月の取扱頭数は、牛11,678.0頭、豚25,640.5頭、1日平均取扱頭数は、牛531頭(前月比96.7%)豚1,166頭(前月比93.7%)であった。入荷は牛・豚とも減少。6月は消費形態が夏型の焼き肉需要に移行する端境期であり、特に梅雨入りで食肉消費は伸び悩む時期である。それに加えて、消費者の低価格志向が根強く、前年比では依然上物安・スソ物高のパターンが続いている。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,863円、乳牛(B-3)784円であった。豚生体(上規格)は、前月までの弱気を払拭し400円後半から500円台にのせて推移した。在庫不足、出荷頭数の減少、夏場需要としてロース、ヒレ、モモの荷動きが上向き、末端消費の回復基調により、500円前半の相場展開となった。平均価格は、512円(対前月比82円高)と大きく上げた。相場は強含み。豚の取引は、全国出荷頭数1,347,599頭で、1日平均61,255頭と前月比6.3%減。

輸入牛肉は、取扱量88.1トン(前月比80.1%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は540円で前月比28円安となった。

## 7 月

7月の取扱頭数は、牛11,543.0頭、豚22,484.0頭、1日平均取扱頭数は、牛577頭(前月比108.7%)豚1,124頭(前月比96.4%)であった。入荷は牛増加、豚減少。

7月の牛枝肉(生体)平均相場は、最近の末端相場の低価格志向の強まりを反映して、肉質等級2級クラスのスソ物は堅調に推移したが3等級以上のものは全面安の展開になった。和牛去勢は前月より値上がりしたのはB2、A2以下のスソ物で3等級以上のものは値下がりした。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,970円、乳牛(B-3)1円であった。豚生体(上規格)は、入荷頭数が少なめであったこともあり月の後半は堅調に推移した。昨年は中旬以降は500円を割り込んで推移したが、今年は500円台を維持した。豚の取引は、全国出荷頭数1,236,278頭で、1日平均61,814頭と前月比0.9%増。

輸入牛肉は、取扱量95.2トン(前月比108.1%)で、セリ上場の取引はなし、平均価格は472円で前月比58円高となった。

## 8 月

8月の取扱頭数は、牛12,194.5頭、豚24,929.5頭、1日平均取扱頭数は、牛554頭(前月比96.0%)豚1,130頭(前月比108.8%)であった。入荷は牛は減少、豚は増加。

8月の牛枝肉(生体)平均相場は、8月は徐々に全面高になった。特に、埼玉県で起きたO-157検査ミスなどの問題で7月の中元シーズンの売れ行きが低迷し、この反動により8月の中旬以降上昇に転じたものと思われる牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,902円、乳牛(B-3)894円であった。

豚生体(上規格)は、末端消費が上向いてきたことも卸売価格の上昇を後押しした。しかしその後さ下げに転じた、下旬には500円割となった。平均価格は、530円(前月比9円安)と下げた。相場は弱含み。豚の取引は、全国出荷頭数1,333,048頭で、1日平均60,598頭前月比2.0%減。輸入牛肉は、取扱量58.3トン(前月比61.2%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は510円で前月比28円高となった。

## 9 月

9月の取扱頭数は、牛12,219.5頭、豚25,062.0頭、1日平均取扱頭数は、牛611頭(前月比110.3%)豚1,253頭(前月比110.6%)であった。入荷は牛・豚とも増加。8月は全体に価格が上昇し枝肉相場回復の兆しがみられ、9月にはいつてからも月初めは堅調な展開を維持していたが、9月は例年需要の端境期となり市況は一時的に緩むことにくわえ、品質の良い物がそろわなかったなどから、和牛の3等級以上のものの値下がりが目立った。交雑種、乳牛(去勢)のスソ物は、相変わらず堅調な相場展開であった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,858円、乳牛(B-3)1,030円であった。豚生体(上規格)は、余剰感の強さと末端消費の低迷から、例年より500円割れとなった。その後は400円後半から500円前半で推移し安定した相場となったが月末は、気温の低下とともに相場も下降し、300円前半の相場展開となった。平均価格は462円(前月比68円安)と大きく下げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,362,957頭で、1日平均66,247頭と前月比9.7%増。輸入牛肉は、取扱量49.0トン(前月比84.1%)で、セリの上場はなし。平均価格は479円で前月比31円安となった。

## 10 月

10月の取扱頭数は牛12,623.5頭、豚28,176.5頭、1日平均取扱頭数は牛601頭(前月比98.4%)豚1,342頭(前月比107.1%)であった。入荷は牛は減少、豚は増加。

鍋物需要が強まり、高級和牛が前月の値下がりから持ち直した牛枝肉(去勢生体)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,856円、乳牛(B-3)905円であった。豚生体(上規格)は、全国の出荷頭数が少なく、400円台で推移したが、10日以降出荷頭数の増頭傾向が見られると価格は急落し、18日には安定基準価格を下回り、30日には調整保管が実施された。平均価格は382円(前月比80円安)と大きく下げた。

豚の取引は、全国出荷頭数1,474,323頭で、1日平均70,206頭と前月比5.6%増。相場は軟調。

輸入牛肉は、取扱量329.0トン(前月比671.1%)で、平均価格は604円で前月比125円高となった。

## 11 月

11月の取扱頭数は、牛13,559.0頭、豚29,304.0頭、1日平均取扱頭数は牛616頭(前月比102.5%)豚1,332頭(前月比99.3%)であった。入荷は牛・豚とも横ばい。

年末を控えて和牛の荷動きは良くなってきている。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,941円、乳牛(B-3)909円であった。豚生体(上規格)は、前月末に調整保管が実施されたのを受け、月の前半は安定基準価格の365円以上で推移した。しかし消費不振から回復基調は見えず、9日以降は安定基準価格を割り込んだ展開となった。季節柄需要が緩んでおり、実勢での買い気は弱きを払拭できない状況となっている。月平均価格は364円(前月比18円安)と下げた。豚の取引は、全国出荷頭数1,516,274頭で、1日平均68,922頭と前月比1.8%減。

輸入牛肉は、取扱量276.8トン(前月比84.1%)で、セリ上場の取引はなし。平均価格は693円で前月比89円高となった。

## 12 月

12月の取扱頭数は、牛17,556.0頭、豚30,429.5頭、1日平均取扱頭数は、牛702頭(前月比1113.9%)豚1,217頭(前月比91.4%)であった。入荷は牛増加、豚は減少。12月は忘年会、歳暮、ボーナス支給のシーズンで、牛肉の年間最大の需要期である。そのため、牛生体枝肉相場は、前月より全般的に値上がりし年末らしい活況を呈したが、前年同月との比較では、乳牛、交雑種も含めて、上物は値上がりするという最近の消費動向を反映した相場展開となった。牛枝肉(去勢生体)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,975円、乳牛(B-3)1円であった。豚肉の調整保管は12月末日までに25,000頭を超し、豚生体(上規格)は、調整保管の買い支えにより、月の前半は365円の安定基準価格がらみの展開となったが、月の後半には忘年会、クリスマス需要、年末年始の手当が強まり、一時400円台にのせる展開となった。平均価格は、376円(前年比12円高)と上げた。相場は強含み。豚の取引は、全国出荷頭数1,548,518頭で、1日平均61,941頭と前月比10.1%減。輸入牛肉は、取扱量358.6トン(前年比129.6%)で、セリ上場の取り引きはなし。平均価格は、650円で前年比43円安となった。